

Journal
of **E**ducation
Inclusive

Printed 2016.0830
ISSN 2189-9185

Published by Asian Society of Human Services



August 2016
VOL. **1**

ORIGINAL ARTICLE

IN-Child Record を活用した IN-Child の個別教育支援モデル構築のための基礎的研究

Study for Construction of the Individual Education Support Model: Based on IN-Child Record

太田 麻美子¹⁾ (Mamiko OTA), 沼館 知里²⁾ (Chisato NUMADATE),
韓 昌完²⁾ (Changwan HAN)

- 1) 琉球大学教育学研究科
(Graduate school of Education, University of the Ryukyus)
2) 琉球大学教育学部
(Faculty of Education, University of the Ryukyus)

<Key-words>

IN-Child, IN-Child Record, 個別の教育支援, モデル構築
(IN-Child, IN-Child Record, individual education support, model construction)

till3005.mo@gmail.com (太田 麻美子)

Journal of Inclusive Education, 2016, 1: 35-47. © 2016 Asian Society of Human Services

ABSTRACT

IN-Child とは、専門家を含めたチームによる包括的教育を必要とする子どものことである。小中学校においては全国的に IN-Child が増加し、多くの教育支援がなされているものの、IN-Child の実態や支援方法に関して典型化されていない。そこで本研究では、IN-Child Record を用いて「合理的配慮」実践事例データベース（国立特別支援総合研究所）の教育実践 119 件を対応分析することで、IN-Child の特徴とそれに対する教育的支援を典型化することを目的とする。また、本研究は、個別の教育支援モデル構築のための基礎資料とする。

IN-Child Record の領域と IN-Child の特徴及び教育支援について対応分析した結果、①身体面に困難のある子どもは、身体面、情緒面、生活面の支援、②情緒面に困難のある子どもは、主に生活面、学習面の支援、③生活面に困難のある子どもは、主に生活面への支援、④学習面に困難のある子どもは、生活面、学習面の支援が必要であるということが明らかになった。

Received
2016 / 7 / 23

Revised
2016 / 8 / 18

Accepted
2016 / 8 / 20

Published
2016 / 8 / 30

I. 問題と目的

現在、インクルーシブ教育システム構築が推進されており、その課題の一つとして、通常の学級における発達障害と似たような特性を示す子ども達への対応があげられている。文部科学省(2012)が行った調査によると、推定値で6.5%の児童生徒が通常の学級において、何らかの支援ニーズを抱えていることが公表されていた。しかし、この結果を受け、国立特別支援教育総合研究所(2014)が行った補足調査によると、小学校で82.7%、中学校で76.7%の教員が、推定値以上に多くの子ども達は何らかの支援ニーズを抱え、学級に在籍していると捉えている事が明らかになった。

学校現場では発達障害に対する理解は広がりつつあるものの、支援に関しては依然として困難な面が多く、具体的な支援を模索しながら進めているのが現状であるとし、教育現場における混乱が生じている(松本・須川, 2014)。このような状況であるため、通常の学級において支援を必要とする子ども達への支援体制の構築は、早急に取り組みなければならない最重要課題である。

通常の学級において、そのような子どもたちは「気になる子」「気がかりな子」「不器用な子」とよばれている。韓・太田・権(2016)は、複数の研究領域で用いられていた「気になる子」の概念をまとめ、インクルーシブ教育の観点から捉え、**Inclusive Need Child** (包括的な支援を必要とする子: 以下、IN-Child)とした。IN-Childとは、「発達の遅れ、知的な遅れまたはそれらによらない身体面、情緒面のニーズ、家庭環境などを要因として、専門家を含めたチームによる包括的教育を必要とする子」と定義され、教育現場における「困り感をもつ子ども」を、子ども達の見方から、包括的教育を必要とし、チームによる対応が必要であると捉えている。また、韓・太田・権(2016)は、IN-Childの教育的診断の為に評価・継続的支援を行うためのツールとして**IN-Child Record**を開発し、**IN-Child Record**を活用したIN-Childの教育支援体制の必要性を提言している。

現在、IN-Childに対して様々な教育的対応がとられている。研究領域においても多くの実践報告がなされているが、それらを体系化し、IN-Childの指導・支援、評価を含む個別の教育支援を検討する為の研究は見当たらない。

以上のことから、IN-Childへの指導・支援と評価を含む個別の教育支援モデルの構築が必要である。本研究では、**IN-Child Record**を用いて「合理的配慮」実践事例データベース(国立特別支援総合研究所)の教育実践事例を対応分析することで、IN-Childの特徴とそれに対する教育的支援を典型化することを目的とする。また、本研究は、個別の教育支援モデル構築のための基礎資料とする。

II. 方法

1. 資料収集方法

(1) 文献抽出の際に利用するデータベース

インクルーシブ教育システム構築支援データベース「合理的配慮」実践事例データベース(国立特別支援総合研究所)の中から、以下の資料選定基準に基づいて、資料抽出を行った。「合理的配慮」実践事例データベースは、インクルーシブ教育システム構築モデル事業の中で取り込まれている事例がデータベース化されており、実際に教育的支援が行われた事例をまと

めたものである。また、これらの実践事例は IN-Child を対象にしておこなわれた事例である。よって、本研究では、「合理的配慮」実践事例データベースの事例を抽出することにした。

(2) 資料選定基準

- ・対象になる児童生徒の学年が小学生か中学生であるもの
- ・対象になる児童生徒の在籍が通常の学級、通常の学級・通級による指導、特別支援学級であるもの

2. 分析方法

IN-Child Record を用いて「合理的配慮」実践事例データベース(国立特別支援総合研究所)の教育実践事例を対応分析した。教育実践事例を分析するには、対象児童生徒の実態と指導・支援方法の2点に分け、IN-Child Record の領域を対応させて分析を行った。また、指導・支援に関する評価の実態も分析した(表 1)。

表 1 「合理的配慮」実践事例データベースにおける分析対象事例の分析項目

1	対象児童生徒	(1)児童生徒について	①学年
		(2)児童生徒の実態	①診断の有無 ②身体面 ア.身体の状態 イ.姿勢・運動・動作 ③情緒面 ア.不注意 イ.多動性・衝動性 ウ.こだわり エ.自己肯定感 ④生活面 ア.生活機能 イ.コミュニケーション ⑤学習面 ア.聞く イ.話す ウ.読む エ.書く オ.計算する カ.推論する
		(3)在籍	①通常の学級 ②通常の学級・通級による指導 ③特別支援学級
2	指導・支援方法	(1)指導・支援	①身体面への指導・支援 ②情緒面への指導・支援 ③生活面への指導・支援 ④学習面への指導・支援
3	指導・支援に関する評価	(1)評価の記載	①記載されている ②記載されていない
		(2)客観的な評価ツールを使用しているか	①使用している⇒何を使用しているか 使用していない⇒評価はどのように行っているか ②教師の主観的評価 ③子どものフィードバック ④その他

Ⅲ. 結果

1. 資料抽出結果

資料選定基準に基づいて資料収集した結果、「合理的配慮」実践事例データベースに記載されている実践事例 158 件のうち、分析対象事例が 119 件であった。

2. 対象児童生徒と指導・支援方法

119 件のうち、91 件の事例が、個別の教育支援計画を作成し、それをもとに実態把握、指導・支援方法の検討を行っていた。

(1) 対象児童生徒について

分析対象事例の児童生徒の学年をまとめると、小学生の事例が 102 件、中学生の事例が 17 件であった。

小学生の事例のうち、1 年生が 14 件、2 年生が 20 件、3 年生が 17 件、4 年生が 23 件、5 年生が 12 件、6 年生が 16 件であった。また、中学生の事例のうち、1 年生が 4 件、2 年生が 6 件、3 年生が 7 件であった。中学生の事例に比べて小学生の事例が多く、その中でも小学 4 年生の事例が多いことが明らかになった。

(2) 児童生徒の在籍

① 小学校での就学措置

小学生の事例 102 件のうち、通常の学級 57 件、特別支援学級が 45 件であった。また、通常の学級のうち、通級による指導を利用しているものが 41 件であった。

② 中学校での就学措置

中学生の事例 17 件のうち、通常の学級 8 件、特別支援学級が 9 件であった。また、通常の学級のうち、通級による指導を利用しているものが 2 件であった。

(3) 児童生徒の実態と指導・支援について

① 診断の有無

分析対象資料 119 件のうち、診断有りと表記があったのは 69 件であった。うち、視覚障害が 3 件、聴覚障害が 6 件、知的障害が 4 件、肢体不自由(脳性まひ等)が 8 件、病弱・身体虚弱(骨形成不全症、筋ジストロフィー等)が 4 件、言語障害が 1 件、自閉症が 5 件、情緒障害が 3 件、LD(学習障害)が 2 件、ADHD(注意欠陥多動性障害)が 5 件、重複障害が 28 件であった。

重複障害のうち、12 件が知的障害と自閉症を合わせ有する障害、5 件が知的障害と肢体不自由であった。

② 身体面

ア. 「身体の状態」に関する事例の特徴と指導・支援

身体の状態に関する支援が必要な IN-Child の事例は、11 件であった。そのうち、緊張感や不安感、疲労感といったストレスに関連するものが 6 件であった。身体の状態に関する支援が必要な IN-Child は、自己肯定感と生活面、学習面全般的にも支援が必要な事例が

多く、特に自己肯定感(8件)と社会生活機能(8件)、書く(8件)の領域においてその傾向が強く現れていた。

身体の状態に対する IN-Child への支援として、情緒面への指導・支援を行っている事例が 5 件、そのうち、刺激の少ない部屋での指導が 2 件であった。生活面への指導・支援を行っている事例・支援が 9 件、そのうち、感情を表出する手立てへの指導といった気持ちや体調を自分で伝えるための指導、他の児童生徒と関わりを促す等の自己表現に関連する事例が 6 件であった。身体面への指導・支援を行っている事例はほとんどなかった。

イ. 「姿勢・運動・動作」に関する事例の特徴と指導・支援

姿勢・運動・動作に関する支援が必要な IN-Child の事例は 29 件であった。肢体不自由に関連する事例が 13 件であり、何らかの診断(脳性まひ、自閉症等)を受けているものは 19 件であった。また、特別支援学級に在籍している事例が多く、21 件であった。

姿勢・運動・動作に対する IN-Child への指導・支援として、身体面への指導・支援を行っている事例が 10 件、そのうち、身体のコントロール、微細運動等の運動に関する指導が 7 件であり、そのほとんどが特別支援学級や通級による指導での自立活動を通して行われていた。

③情緒面

ア. 「不注意」に関する事例の特徴と指導・支援

不注意に関する支援が必要な IN-Child の事例は、21 件であった。そのうち、ADHD の診断を受けている事例が 2 件、ADHD の傾向を示す事例が 9 件であった。また、不注意に関する支援が必要な IN-Child は、自己肯定感(12 件)、社会生活機能(11 件)、書く(11 件)の領域においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。また、通級による指導を受けている事例が 10 件であった。

不注意に対する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 16 件であり、主にタブレット端末等の ICT 機器の活用を意識したものが 5 件であった。

イ. 「多動性・衝動性」に関する事例と指導・支援

多動性・衝動性に関する支援が必要な IN-Child の事例は 18 件であり、そのうち、ADHD や LD、自閉性スペクトラム症候群の診断を受けている事例が 7 件であった。また、多動性・衝動性に関する支援が必要な IN-Child は、コミュニケーション(11 件)の領域においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

多動性・衝動性に対する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 14 件であり、うちタブレット端末の使用やカードの活用、イラストを活用した学習など、視覚的な支援が 7 件であった。また、生活面への指導・支援を行っている事例が 9 件であり、指導内容として SST(ソーシャルスキルトレーニング)をしている事例が 7 件であった。

ウ. 「こだわり」に関する事例と指導・支援

こだわりに関する支援が必要な IN-Child の事例は 20 件であり、そのうち、ADHD や、

自閉性スペクトラム症候群の診断を受けている事例が15件であった。また、こだわりに関する支援が必要なIN-Childは、自己肯定感(12件)や社会生活機能(10件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

こだわりに関するIN-Childへの指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が16件であり、小集団指導や通級等による個別指導を取り入れている事例が7件であった。また、生活面への指導・支援を行っている事例が12件であり、同じく通級による指導等を活用したSST(ソーシャルスキルトレーニング)やロールプレイといったコミュニケーションによる指導が行われていた。

エ. 「自己肯定感」に関する事例と指導・支援

自己肯定感に関する支援が必要なIN-Childの事例は52件であり、そのうち、何らかの診断を受けている事例が26件であった。また、自己肯定感に関する支援が必要なIN-Childは、書く(28件)や読む(23件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

自己肯定感に関するIN-Childへの指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が40件であり、穴埋め式ワークシートの活用やスモールステップを意識した教科中心の支援を行っている事例が32件であった。また、生活面への指導・支援を行っている事例が23件、情緒面への指導・支援を行っている事例が21件であり、支援員のサポートや小集団を通じた成功体験を意識した事例が多く見られた。

表2 身体面、情緒面に関する支援を必要とするIN-Childの実態と指導・支援

領域(件)		特徴と支援	
身体面	身体の状態 (11件)	特徴	<ul style="list-style-type: none"> 緊張感や不安感、ストレスに関する事例が6件 自己肯定感(8件)、社会生活機能(8件)、書く(8件)にも支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援	【情緒面】全部で5件。うち、刺激の少ない部屋での指導が2件 【生活面】全部で9件。うち、自己表現への指導・支援に関連する事例が6件
	姿勢・運動 ・動作 (29件)	特徴	<ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由に関連する事例が13件 何らかの診断を受けている事例が19件 特別支援学級に在籍している事例が21件
		指導・支援	【身体面】全部で10件。うち、運動に関する指導が7件 ・特別支援学級や通級による指導での自立活動を通して行われている
情緒面	不注意 (21件)	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ADHDの診断を受けている事例が2件、傾向を示すIN-Childの事例が9件 自己肯定感(12件)、社会生活機能(11件)、書く(11件)にも支援が必要なIN-Childが多い 通級による指導を受けている事例が10件
		指導・支援	【学習面】全部で16件。タブレット型端末等のICT機器の活用に関する事例が5件
	多動性・衝動 性 (18件)	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ADHDやLD、自閉性スペクトラム症候群の診断を受けている事例が7件 コミュニケーション(11件)の領域においても支援が必要なIN-Childが多い 通級による指導を受けている事例が10件であり、指導内容としてSSTをしている事例が7件
		指導・支援	【学習面】全部で14件。視覚的な支援が7件 【生活面】全部で9件。指導内容としてSSTをしている事例が7件
	こだわり (20件)	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ADHDやLD、自閉性スペクトラム症候群の診断を受けている事例が15件 自己肯定感(12件)や社会生活機能(10件)にも支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援	【学習面】全部で16件。小集団・個別指導を取り入れている事例が7件 【生活面】全部で12件。SSTやロールプレイ等のコミュニケーションによる指導が多い。
	自己肯定感 (52件)	特徴	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの診断を受けている事例が26件 書く(28件)や読む(23件)にも支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援	【学習面】全部で40件。穴埋め式ワークシートやスモールステップを意識した教科中心の支援事例が32件 【生活面】全部で23件。 【情緒面】全部で21件。 ・支援員のサポートや小集団を意識した事例が多く見られた

④生活面

ア. 「社会生活機能」に関する事例と指導・支援

社会生活機能に関する支援が必要な IN-Child の事例は 46 件であり、そのうち、何らかの診断を受けている事例が 23 件であった。また、社会生活機能に関する支援が必要な IN-Child は、コミュニケーション(33 件)や自己肯定感(25 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

社会生活機能に関する IN-Child への指導・支援として、生活面への指導・支援を行っている事例が 27 件であり、そのうち、支援員や友達による声かけやホワイトボードの活用、ICT 機器を活用して見通しを持たせている事例が 11 件であった。また、情緒面に関する指導・支援を行っている事例が 22 件であり、IN-Child の状態に合わせて活動場所を選択できるように、リソースルームや特別支援学級を活用した居場所づくりを行っている事例が 7 件であった。

イ. 「コミュニケーション」に関する事例と指導・支援

コミュニケーションに関する支援が必要な IN-Child の事例は 55 件であり、そのうち、何らかの診断を受けている事例が 30 件であった。また、コミュニケーションに関する支援が必要な IN-Child は、社会生活機能(33 件)や自己肯定感(24 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

コミュニケーションに関する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 49 件であった。また、生活面への指導・支援を行っている事例が 33 件であり、そのうち、仲の良い友達や支援員を配置したりすることで、周囲とのコミュニケーションを図る事例が 7 件あった。

⑤学習面

ア. 「聞く」に関する事例と指導・支援

聞くに関する支援が必要な IN-Child の事例は 39 件であり、何らかの診断を受けている事例が 27 件であった。また、聞くに関する支援が必要な IN-Child は、話す(32 件)や読む(22 件)、書く(35 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

聞くに関する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 35 件であり、そのうち、教師による個別の指示、授業の進行に関する支援員の声かけ等の、個別の声掛けに関する支援が 12 件であった。その際には、情報を細分化し、より理解しやすく伝えている事例が多く見られた。また、生活面に関する指導・支援が 20 件であり、そのうち自分から援助を求めるようなコミュニケーション能力の指導が 5 件、支援員や周囲の友達へ確認できるような環境づくりがなされている事例が多く見られた。

イ. 「話す」に関する事例と指導・支援

話すに関する支援が必要な IN-Child の事例は 41 件であり、何らかの診断を受けている事例が 28 件であった。また、話すに関する支援が必要な IN-Child は、聞く(34 件)や読む(34 件)、書く(36 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

話すに関する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 36 件であり、通級による指導を活用した発話指導を行っている事例が見られた。ま

た、生活面への指導・支援を行っている事例が 22 件であり、小集団による指導や仲の良い友達をグループに入れる等の配慮を通してコミュニケーションを促し、成功体験を増やすような指導・支援が 6 件見られた。

ウ. 「読む」に関する事例と指導・支援

読むに関する支援が必要な IN-Child の事例は 52 件であり、何らかの診断を受けている事例が 29 件であった。また、話すに関する支援が必要な IN-Child は、聞く(34 件)や話す(34 件)、書く(47 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

読むに関する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 47 件であり、通級による指導や特別支援学級を活用した読みや発表の指導を行っている事例が、22 件見られた。また、生活面への指導・支援を行っている事例が 26 件であった。

エ. 「書く」に関する事例と指導・支援

書くに関する支援が必要な IN-Child の事例は 62 件であり、何らかの診断を受けている事例が 36 件であった。また、書くに関する支援が必要な IN-Child は、聞く(35 件)や、読む(47 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

書くに関する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 55 件であり、うち、書字困難の改善のためにタブレット端末等の ICT 機器を活用した指導を行っている事例が 11 件見られた。また、生活面への指導・支援を行っている事例が 37 件であり、特別支援学級や通級による指導において、各教科を合わせた指導である日常生活の指導及び生活単元学習を取り入れている事例が多く見られた。

オ. 「計算する」に関する事例と指導・支援

計算するに関する支援が必要な IN-Child の事例は 34 件であり、何らかの診断を受けている事例が 22 件であった。また、計算するに関する支援が必要な IN-Child は、読む(32 件)や、書く(32 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

計算するに関する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 30 件であり、うち、理解度に応じた教材の工夫や学習量の調整等、学習に関する負担を軽減する支援が 10 件見られた。

カ. 「推論する」に関する事例と指導・支援

推論するに関する支援が必要な IN-Child の事例は 40 件であり、何らかの診断を受けている事例が 27 件であった。また、推論するに関する支援が必要な IN-Child は、読む(33 件)や、書く(36 件)においても支援が必要な事例が多いことが明らかになった。

推論するに関する IN-Child への指導・支援として、学習面への指導・支援を行っている事例が 33 件であり、うち、教材の工夫として具体物・半具体物の操作を取り入れたり、動画を利用したりする学習等の視覚に関する支援が多く見られた。

表3 生活面、学習面に関する支援を必要とする IN-Child の実態と指導・支援

領域(件)	特徴と支援	
生活面	社会生活機能 (46件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が23件 ・ コミュニケーション(33件)や自己肯定感(25件)においても支援が必要な事例が多い
		指導・支援 【情緒面】全部で22件。うち、居場所づくりを行っている事例が7件 【生活面】全部で27件。うち、見通しを持たせるような支援事例が22件
	コミュニケーション (55件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が30件 ・ 社会生活機能(33件)、自己肯定感(24件)においても支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援 【学習面】全部で49件。 【情緒面】全部で33件。うち、仲の良い友達や支援員の配置により、コミュニケーションを図る事例が7件
学習面	聞く (39件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が27件 ・ 話す(32件)や読む(22件)、書く(35件)においても支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援 【学習面】全部で35件。うち、個別の声掛けに関する支援が12件 【生活面】全部で20件。コミュニケーションの指導が5件。
	話す (41件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が28件 ・ 聞く(34件)や読む(34件)、書く(36件)においても支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援 【学習面】全部で36件。通級による指導を活用した発話指導等 【生活面】全部で22件。コミュニケーションを通して、成功体験を増やすような指導・支援が6件
	読む (52件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が29件 ・ 聞く(34件)や話す(34件)、書く(47件)においても支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援 【学習面】全部で47件。うち、通級による指導等を活用した読みや発表の指導を行っている事例が22件 【生活面】全部で26件。
	書く (62件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が36件 ・ 聞く(35件)や、読む(47件)においても支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援 【学習面】全部で55件。うち、書字困難の改善のためにタブレット端末等のICT機器を活用している事例が11件 【生活面】全部で37件。特別支援学級等において、日常生活の指導や生活単元学習を取り入れている事例が多い
	計算する (34件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が22件 ・ 読む(32件)や、書く(32件)においても支援が必要なIN-Childが多い
		指導・支援 【学習面】全部で30件。 うち、学習量の調整等、学習に関する負担を軽減している事例が10件
推論する (40件)	特徴 ・ 何らかの診断を受けている事例が27件 ・ 読む(33件)、書く(36件)においても支援が必要なIN-Childが多い	
	指導・支援 【学習面】全部で33件。うち、具体物の操作等、視覚に関する支援が多くみられた。	

3. 指導・支援方法に関する評価

(1) 評価の記載

指導・支援方法に関する評価についての記載があった事例は、119件中54件であった。

(2) 評価方法

指導・支援方法に関する評価についての記載があった事例の中で、客観的な評価ツールを使用している事例は54件中0件であった。教師の主観による評価をしている事例は6件、子どものフィードバックによる評価をしている事例は7件、保護者からの聞き取りによる評価をしている事例は0件であった。一番多く見られたのは、ケース会議等を活用したチームによって個別の教育支援計画の作成とそれに基づいた評価を行っている事例で、16件であった。しかし、個別の教育支援計画の作成とそれに基づいた評価を行うためのチームの要素に関しては、16件全ての事例においてばらばらであり、特別支援学校と連携している事例もあれば、校内連携に留まる事例、保護者を含めた連携を行う事例など様々であった。

また、評価のインターバルについて、一番多かったのが、学期ごとに評価を行っている事例で14件であった。その他2・3ヶ月ごとや年2回、年度末などのスパンで行われていた。

IV. 考察

1. IN-Child の実態と指導・支援方法

①身体面に困難のある子ども

身体面に困難のある子どもは、身体面、情緒面、生活面の指導・支援が多くなされていた。身体の状態に困難のある子どもは、情緒面と生活面に関する指導・支援が行われていた。身体の状態に関する項目は、主に虐待のチェックリストを基に作成されている(韓・太田・權, 2016)。その為、情緒面、生活面といった他の領域からも支援を行う必要があったと思われる。

姿勢・運動・動作に困難のある子どもは、主に身体面に関する指導・支援が行われていた。姿勢・運動・動作に関する項目は、自立活動の内容である身体の動きを基に項目が構成されている(韓・太田・權, 2016)。その為、身体面を中心に指導を行う事例が多かったと考えられる。

同じ身体面の領域でも、身体の状態に困難のある子どもへの指導・支援と、姿勢・運動・動作に困難のある子どもへの指導・支援とは、違いがある。その為、違いを考慮した指導・支援を行うことが重要である。

②情緒面に困難のある子ども

情緒面に困難のある子どもは、情緒面、学習面、生活面の指導・支援が多くなされていた。また、情緒面全ての領域(不注意、多動性・衝動性、こだわり、自己肯定感)に共通する指導・支援として、学習面に関する指導が行われていた。すなわち、情緒面に困難のある子どもに対しては、学習面への指導・支援をする必要があるのではないと思われる。

多動性・衝動性とこだわりに困難のある子どもは、学習面に加え、生活面への指導・支援が行われていた。それぞれ、ADHD 評価スケールや高機能自閉症に関するスクリーニング質問紙を参考にして構成されている(韓・太田・權, 2016)。ADHD や高機能自閉症は、その特徴から、社会生活機能やコミュニケーションに影響を与える可能性が高いため、生活面に関する指導・支援も行う必要があったと思われる。

自己肯定感に困難のある子どもは、学習面に加え、生活面と情緒面に関する指導・支援が行われていた。自己肯定感の低い子どもの特徴として、心理的な安定に困難を抱えていることが多く、その結果、コミュニケーションや社会生活機能を含む生活面に影響を与える可能性が高い。そのため、生活面、情緒面に関する指導・支援を行う必要があったと思われる。

③生活面に困難のある子ども

生活面に困難のある子どもは、情緒面、生活面、学習面において指導・支援が多くなされていた。共通する指導・支援として、情緒面に関する指導が行われていた。すなわち、生活面に困難のある子どもに対しては、情緒面への指導・支援をする必要があるのではないと思われる。

社会生活機能の領域は、情緒面に加え、生活面への指導・支援がなされていた。社会生活機能は、ルールの理解や人間関係の形成における困難の程度を意味するため(韓・太田・權, 2016)、社会生活機能やコミュニケーションといった生活面を中心に指導・支援を行う必要があったと思われる。

コミュニケーションの領域は、情緒面に加え、学習面への指導・支援がなされていた。こ

これは、学習面の聞く、話す、読む、書くの領域が、コミュニケーションに関連する項目となっているからではないかと考えられる。

④学習面に困難のある子ども

学習面に困難のある子どもは、学習面と生活面において指導・支援が多くなされていた。

聞く、話す、読む、書くの領域は、学習面と生活面、両方において指導・支援が行われていた。これは、聞く、話す、読む、書くの領域が、コミュニケーションや社会生活機能を含む生活面と関連する項目となっているため、学習面と生活面共に指導・支援することが効果的なのではないかと考えられる。

計算する、推論するの領域は主に学習面を中心とした指導・支援が行われていた。計算する、推論するは、聞く、話す、読む、書くと比べ、より高次な能力であるため、学習面における指導・支援が中心になってくるのではないかと考えられる。

2. 今後の展望

本研究では、IN-Child Record の領域を用いて、IN-Child の特徴に合わせた指導・支援方法を典型化することを目的とし、分析を行った結果、典型化する為の傾向を捉えることができた。本研究の結果は、学校現場における IN-Child の指導・支援方法を検討していく上で、参考になると考えられる。今後、IN-Child Record を使用した教育実践を蓄積し、指導・支援方法を典型化することで、IN-Child の個別教育支援モデルを構築していく必要があるだろう。

文献

- 1) 文部科学省(2012) 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1328729.htm
(2016.08.08 最終閲覧)
- 2) 独立行政法人 特別支援教育総合研究所(2014) 「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の補足調査.
<http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/20140520-153502.pdf>
(2016.08.08 最終閲覧)
- 3) 松本禎明・須川果歩(2014) 発達障害の子どもの支援に関する小学校教諭の意識に関する調査研究. 九州女子大学紀要, 50(2), 169-185.
- 4) 韓昌完・太田麻美子・權偕珍(2016) 通常学級に在籍する IN-Child(Inclusive Needs Child:包括的教育を必要とする子)Record の開発. Total Rehabilitation Research, 3, 84-99.
- 5) 林隆・木戸久美子・中村仁志・高野和良・加登田恵子・賢田雅子(2005) 医療と福祉との連携を見据えた特別支援教育に対する教員の意識と課題に関する調査. 山口県立大学看護学部紀要, 9, 1-6.

分析対象資料一覧

インクルーシブ教育システム構築支援データベース, 「合理的配慮」実践事例データベース

URL: <http://inclusive.nise.go.jp/>

以下、分析対象資料 119 件のファイル名を記載する。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1) H26 0566PT4-ED | 34) H25 0095PT1-AD |
| 2) H26 0410PS3-Au | 35) H25 0092PT3-LD |
| 3) H26 0342PT2-LD | 36) H25 0102PS1-IDAu |
| 4) H26 0278PC4-LD | 37) H25 0119PS1-PD |
| 5) H26 0107PC4-LD | 38) H25 0108PT3-AuAD |
| 6) H26 0080PS6-SIED | 39) H25 0082PS4-IDAu |
| 7) H26 0392PC2-Au | 40) H25 0085PS4-IDAD |
| 8) H26 0315PT3-VI | 41) H25 0084PS4-IDAD |
| 9) H26 0313PT2-SIAu | 42) H25 0112PS6-ID |
| 10) H26 0138PC1-VI | 43) H25 0074PS4-IDAu |
| 11) H26 0022PC3-VI | 44) H25 0083PT6-AuAD |
| 12) H26 0386PC5-PDLLD | 45) H25 0100PT1-HI |
| 13) H26 0400PS4-IDPD | 46) H25 0048PS4-He |
| 14) H26 0423JS3-PD | 47) H25 0055PS4-ID |
| 15) H26 0343PT2-Au | 48) H25 0105JC3-AuED |
| 16) H26 0322JS3-IDPD | 49) H25 0118PT2-ID |
| 17) H26 0319PS5-He | 50) H25 0096PT2-AuLD |
| 18) H26 0297PT4-Au | 51) H25 0093PT5-AuEDLDAD |
| 19) H26 0279PS6-AuLD | 52) H25 0081JS1-IDPDHeSI |
| 20) H26 0260PS2-IDAu | 53) H25 0067PT4-ED |
| 21) H26 0218JC3-IDAu | 54) H25 0120PC6-ED |
| 22) H26 0095PS2-ID | 55) H25 0111PS4-Au |
| 23) H26 0262JC1-Au | 56) H25 0106JS3-ID |
| 24) H25 0091JS2-IDAu | 57) H25 0090PC3-Au |
| 25) H25 0115PT2-AuAD | 58) H25 0075PS1-IDPD |
| 26) H25 0094PT4-AD | 59) H25 0110PS6-IDAu |
| 27) H25 0070PS2-ED | 60) H25 0109PT5-AuAD |
| 28) H25 0069PT6-LDAD | 61) H25 0117PS2-IDAu |
| 29) H25 0068PT5-LD | 62) H25 0107PS1-Au |
| 30) H25 0121PC6-ED | 63) H25 0089PC6-ED |
| 31) H25 0101PT5-LD | 64) H25 0054PS1-VIIDSI |
| 32) H25 0097PT3-Au | 65) H25 0113JS2-PD |
| 33) H25 0104PT3-LD | 66) H25 0103PS3-IDAu |

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 67) H25 0087PS5-ID | 94) H25 0023PS2-PD |
| 68) H25 0072PS6-IDAu | 95) H25 0022JT2-LDAD |
| 69) H25 0080PS2-IDAu | 96) H25 0040PC3-ED |
| 70) H25 0066PT3-ED | 97) H25 0019PS4-ID |
| 71) H25 0061PS5-IDAu | 98) H25 0017PC3-SI |
| 72) H25 0088PT6-IDAu | 99) H25 0007JS2-VI |
| 73) H25 0086PT5-AuLDAD | 100) H25 0039PS6-ED |
| 74) H25 0099PT2-AuAD | 101) H25 0041PS4-Au |
| 75) H25 0114JS3-PD | 102) H25 0001PT2-AD |
| 76) H25 0098PT2-AuLDAD | 103) H25 0003PT4-AD |
| 77) H25 0078JC2-IDAu | 104) H25 0038PT5-AD |
| 78) H25 0079JC2-Au | 105) H25 0021PT4-LD |
| 79) H25 0053PS2-IDS | 106) H25 0020PS1-He |
| 80) H25 0077PC1-AuAD | 107) H25 0027PT5-AD |
| 81) H25 0077PC1-AuAD | 108) H25 0028JC3-AD |
| 82) H25 0076PS1-IDPD | 109) H25 0037PT3-LDAD |
| 83) H25 0071PS4-IDAu | 110) H25 0036JT1-HI |
| 84) H25 0045PS1-AuED | 111) H25 0035PS1-PD |
| 85) H25 0033PT3-AuED | 112) H25 0032PT4-AD |
| 86) H25 0043PT2-LD | 113) H25 0031PC3-PD |
| 87) H25 0026PS1-ID | 114) H25 0029PT4-HI |
| 88) H25 0008PS2-IDAu | 115) H25 0012PT4-HI |
| 89) H25 0009SP6-IDAu | 116) H25 0024PT3-He |
| 90) H25 0044JS1-PD | 117) H25 0014PT6-LD |
| 91) H25 0042PS2-IDED | 118) H25 0013PT5-HI |
| 92) H25 0030PS6-ID | 119) H25 0002PS3-HI |
| 93) H25 0025PC2-AuED | |

(2016.08.08 最終閲覧)

- Editorial Board -

Editor-in-Chief	Atsushi TANAKA	University of the Ryukyus (Japan)
Executive Editor	Changwan HAN	University of the Ryukyus (Japan)

Aiko KOHARA
University of the Ryukyus (Japan)

Aoko CHINA
National Institute of Vocational Rehabilitation
(Japan)

Eonji KIM
Hanshin PlusCare Counselling Center (Korea)

Haejin KWON
Ritsumeikan University (Japan)

Hideyuki OKUZUMI
Tokyo Gakugei University (Japan)

Iwao KOBAYASHI
Tokyo Gakugei University (Japan)

Kazuhito NOGUCHI
Tohoku University (Japan)

Keita SUZUKI
Kochi University (Japan)

Kenji WATANABE
Kio University (Japan)

Kohei MORI
Kanda-Higashi Clinic, MPS Center (Japan)

Liting CHEN
Sophia School of Social Welfare (Japan)

Mika KATAOKA
Kagoshima University (Japan)

Mikio HIRANO
Tohoku Bunka Gakuen University (Japan)

Nagako KASHIKI
Ehime University (Japan)

Shogo HIRATA
Ibaraki Christian University (Japan)

Takahito MASUDA
Hirosaki University (Japan)

Takashi NAKAMURA
University of Teacher Education Fukuoka (Japan)

Takeshi YASHIMA
Joetsu University of Education (Japan)

Tomio HOSOBUCHI
Saitama University (Japan)

Toru HOSOKAWA
Tohoku University (Japan)

Toshihiko KIKUCHI
Mie University (Japan)

Yoshifumi IKEDA
Joetsu University of Education (Japan)

Editorial Staff

- Editorial Assistants	Mamiko OTA	University of the Ryukyus (Japan)
	Sakurako YONEMIZU	Asian Society of Human Services

Journal of Inclusive Education

VOL.1 August 2016

© 2016 Asian Society of Human Services

Editor-in-Chief Atsushi TANAKA

Presidents Masahiro KOHZUKI • Sunwoo LEE

Publisher Asian Society of Human Services

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com

Production Asian Society of Human Services Press

Faculty of Education, University of the Ryukyus, 1 Senbaru, Nishihara-cho, Nakagami-gun, Okinawa, Japan
FAX: +81-098-895-8420 E-mail: ashs201091@gmail.com

Journal of Inclusive Education
VOL.1 August 2016
CONTENTS

ORIGINAL ARTICLES

- The Measurement of Educational Assessment and Psychology, Physiology and Pathology for Children with Physical Disability, Health ImpairmentHaejin KWON, et al. 1
- Effects of Weekday Café Program in Special Needs School; Using by Special Needs Education Assessment Tool (SNEAT)..... Yoshimi CHINEN, et al. 11
- Redefinition and Construct of Diversity Education..... Changwan HAN, et al. 19
- Remembering the Past Autobiographical Memories and Imaging the Future in an Adult with Amnesic Syndrome; The Role of the Involuntary MemoryMikio HIRANO, et al. 28
- Study for Construction of the Individual Education Support Model: Based on IN-Child Record Mamiko OTA, et al. 35
- The Influence of the Degree of Others/Self-understanding of the Social Interaction in Children with ASD Toru SUZUKI, et al. 48
- Study on the Expectation of the Student Volunteers to Assist in the Leisure and Learning for Hospitalized Children Sachiyo YAMASHITA, et al. 54
- The Verification of the Reliability of the SNEAT10; The Study of Screening Scale for Inclusive Needs ChildAiko KOHARA, et al. 67
- Social Psychological Study for Motivations of Supports for Developmental Disorders by Members in WorkplacesHiroataka KUWAKI, et al. 74
- Description of Disability in the Sub-textbook on Morals for Elementary School Students Atsushi TANAKA, et al. 85
- The Discrepancy in Members' Participation Purpose in the Self-help Group of Person with Disabilities and His/Her Family that Continues for Many Years: A Case of the Group for Down's Syndrome Takahito MASUDA, et al. 92
- Current Situations and Issues of the Education for Disability Understanding in Higher Education Haejin KWON, et al. 104
- Performance Analysis of Diversity Management using the Balanced Scorecard: Case Study of Japanese Companies Employing Disabled and the ElderlyMoonjung KIM 114

REVIEW ARTICLES

- Special Needs Education in School Education Act and Services and Supports for Persons with Disabilities Act Ryotaro SAITO 124
- Executive Function and Brain Pathology in People with Intellectual and Developmental Disabilities Yoshifumi IKEDA 132
- Research Trends on Educational Support and Psychological Characteristics of the Children with Physical Disabilities Kohei MORI 140
- Special Needs Education in The Elementary School Government Guidelines for Teaching and Nursery Childcare Indicator..... Ryotaro SAITO 146
- Basic Study about Development of the Education for Disability Understanding Index; Based on the Inclusive Education.....Haena KIM, et al. 155
- Current Situation and Issues Related to Organization of the Education Curriculum and Devising of Educational Treatment of Children with Health Impairments..... Kohei MORI 164

PRACTICE REPORT

- A Report of the Project of Establishment of Educational Security Center for the Long-term Hospitalized Children in Ehime Prefecture..... Kosuke NAKANO, et al. 170

Published by
Asian Society of Human Services
Okinawa, Japan